



# 碧南ロータリークラブ週報

第3119回例会 令和7年2月12日(水)

- 会長 鈴木 泰博
- 幹事 大竹 密貴
- 会場監督(SAA) 長田 康弘

2024-2025 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内  
TEL<0566>41-1100  
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 例会場 碧南商工会議所ホール  
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90  
FAX<0566>48-1100



- 会報委員 牧野勝俊・杉浦邦彦・岡本耕也

## ● 斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

## ● 本日のお弁当

大正館

## ● 本日のお客様

(株)タートル 代表取締役社長 亀山直樹様

## 会 長 挨 拶

失礼致します。本日も例会にご出席いただき、ありがとうございます。

最近、非常に寒い日が続きまして、昨日の朝起きたら腰が痛くて、歩くのもいっばいっばいというような状況でした。会社へ行ってラジオ体操をやりようと思ってもとてもできる状態じゃなく、時間を作って碧南駅前のマジカルハンドに行きまして、45分間の体ほぐしと15分間の整体をしていただき、なんとかまともに歩けるようになり、夜を迎えることができました。



鈴木泰博会長

昨日の夜は前ロータリアンであり、碧南商工会議所の前会頭である鈴木並生さんの叙勲祝賀会ということで、多くの方々にご参加していただき、非常に盛り上がりまして、楽しい時間を過ごすことができました。

話が変わりますが、2月3日に碧南商工会議所主催の京都老舗新春視察研修会の話をしさせていただけたいと思います。その会自体は木村徳雄幹事が朝も帰りもしっかりとご挨拶していただき、非常に盛り上がりました。京都にバスで行きまして、バスガイドの方も言っておりましたが、京都は非常に混んでいるのに南禅寺に行ったらバスが1台も止まってい

ないのはおかしくないかということで、2月3日だけは京都もすいておりました。

その後に山縣有朋さんの別荘の「無鄰菴」に行きまして、有朋さんというと東京の別荘の「椿山荘」が有名なんですけど、京都にも別荘があり、綺麗な庭でお話を聞かせていただいて、見させていただきました。

その後に美濃吉本店の「竹茂楼」という料亭に行きまして、その10代目当主の佐竹力總さんの60分の講話と昼食をいただきました。佐竹さんはRI第2650地区の2019-2020年度のガバナーでして、ロータリーバッジを付けてみえましたので、ロータリーの名刺を渡したんですけど、佐竹さんの名刺を渡された時に「良かったかなあ、名刺なんか渡しちゃって。」と思った次第です。それで、その60分の講話の中で私の記憶に残っている部分の話をさせていただきたいと思います。

株式会社美濃吉さんは308年の伝統があります。創業が享保元年（江戸時代）1716年で、秋田佐竹の流れをくむ佐竹十郎兵衛が美濃の国大垣から京都へ来て、三条河原で腰掛茶屋を営んだことに始まります。後に京都所司代の許可を得て、川魚生洲八軒のうち現存する一軒として今日まで308年10代の永きにわたり商いをしてまいりましたということです。

会社概要としましては、資本金が4,000万円、年間売上高が約90億円、従業員数が約1,000人、店舗数が46店舗（レストランが21店、惣菜売店が25店）ということで、非常に広い商売をされておりまして、その最高峰にある竹茂楼を私たちは見させていただきましたが、竹茂楼だけではとても利益が出るような形ではないなと思いました。非常に立派な建物で部屋も多くて、京都の文化を維持していくというやり方をされておりまして。「和食NOW ジョイ」というファミリーレストラン、「京懐石・京料理美濃吉」という和食レストラン、その他に惣菜屋という形でやられているそうです。

308年続いた秘訣ということで、佐竹家の当主が進取の精神、挑戦する勇氣、柔軟な発想、優しさ（人を大切にする）を大切にしてきました。そこで働いておられた先人の皆様の努力、精進、その結果としてのご縁（運）だと思えますというようなことを言ってみえました。これは飲食だけじゃなくて、企業人として皆さんも同じような考え方を持っておられるかと思えますので、非常に頭の中に残っております。

日本料理店（料亭）は日本文化の凝縮空間ということで、割烹料理店との違いのお話もされておりまして。

- ・四季のうつろいをかたちに表す「日本料理」
- ・深い趣をたたえる「室礼」
- ・日本料理の伝承者としてのおもてなしの心「装い」「振る舞い」
- ・伝統芸能（花街文化）

というようなものを取り入れているのが日本料理店だそうです。これは日本料理店全部というよりも京都の日本料理店のことを言っているような形なんですけど、そういったことを言ってみえました。あと、日本料理店（料亭）と割烹料理店というのは違いがあるということも言ってみえました。その中で、料理を味わう時に宴会だと皆さんすぐにお酌で席を離れてしまいますが、椀が出てきてそれを少し食べる辺りまでは食を楽しんでいただいて、その後にお酌に行ってください方が良いというようなことも言ってみえました。

あと、日本料理（和食）は日本人のアイデンティティということで、四季の変化を愛でる心、今日も笑顔であいさつ、履物をそろえる、きちんと正座をし、箸を正しく使い、茶わんのぬくもりを感じ、お米を美味しくいただく。米も野菜も肉も魚も命です。これらの命のおかげで、私たちの命を生かされています。「いただきます」「ごちそうさま」尊い命に感謝して食事をいただきましょうというようなことも言ってみえました。これは非常に大切なことだと私も思っております。

今まで私は日本料理が苦手ということはずっと言い続けてきまして、しっかりしたものをこの年齢になるまで食べてこなかったことを反省しております。今後はこういった形で自分の知らない世界を経験して、より一層成長していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。簡単ではありますが、会長挨拶とさせていただきます。

今日もよろしくお願い致します。

## 幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第 8 回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 西尾一色 RC の例会変更のお知らせは、幹事報告書の通りでございます。
- ・ (一社)ロータリーの友事務所より「2025-26年度版ロータリー手帳お買い上げのお願い」が届いております。
- ・ 2月19日(水)は22日(土)IMの振替休会になります。
- ・ 2月26日(水)は定款第7条第1節(d)(1)による休会になります。
- ・ 次回この会場で行われる例会は3月5日(水)になります。3月5日(水)の例会終了後に第9回理事会を行いますので、理事、役員の方はどうぞよろしくお願い致します。



大竹密貴幹事

## 委 員 会 報 告

### <出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 60 名 (内出席免除者 14 名の内出席者 12 名) 出席者 55 名	
出席対象者 55 / 58 名	出 席 率 94.83%
欠席者 5 名 (病欠者 0 名)	

### <ニコボックス>

- 鈴木 泰博君 昨日の鈴木並生様叙勲祝賀会、楽しく過ごさせていただきました。
- 角谷 信二君 永坂誠司君、長田康弘君、楽しいナイトありがとう。
- 石川 鋼勇君 一昨日、国府宮はだか祭に12年ぶりに参加してきました。生きて帰って

これでよかったです。

- 長田 康弘君 先日、角谷信二さん、藤関孝典さん、永坂誠司さん、杉浦栄次さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 小林 清彦君 本日の卓話講師、CMで有名なフォトスタジオタートル、亀山直樹さんを紹介致します。
- 石川 昌樹君 Gボーイズ定期報告です。ミュージックビデオ「ネバーランド」の視聴回数が 6700 回を超えてから全く増えません。ユーチューブ動画の視聴をお願いします。「ぎふだんし」

## 卓 話

### 「写真スタジオの現状と今後の展望について」

㈱タートル 代表取締役社長 亀山直樹様



亀山直樹様

皆様、こんにちは。

只今ご紹介いただきました株式会社タートルの代表をしております亀山と申します。本日はこのような素敵な場にご招待いただきまして、皆様とお会いできたことを非常に光栄に思っております。ありがとうございます。諸先輩の皆様方の前でお話しさせていただくのは甚だ恐縮ではございますけど、30分ほど卓話をさせていただきます。

私は2020年のコロナ禍に4代目の社長になりまして、いわゆるコロナ社長として5期目を迎えております。当社の歴史は1939年に遡ります。創業から86年が経過し、現在は春日井に本社を構えておりますが、その歴史は「カメヤマ写真館」という名称から始まりました。私の曾祖父が創業し、祖父が「写真のカメヤマ」として引き継ぎました。当時はいわゆる街の写真館として、写真を撮ることを主な業務としておりました。そこから、カメラやフィルムなどの物販もしながら写真を撮るといった形態に変わりました。

そして、私の父である3代目が1995年に「株式会社タートル」として法人化し、衣装レンタル・美容・写真撮影を統合した新たなスタイルに変わりました。これまでの写真スタジオといえば、衣装屋・美容院・写真スタジオが別々に存在し、それぞれの店舗で準備をするのが一般的でしたが、1つの場所で完結できる形を作ったことで、お客様にとってより利便性の高いサービスを提供できるようになりました。現在はフォトスタジオ事業として、「フォトスタジオタートル」と「フォトメゾントックトック」という2つのブランドを持っております。もう1つ、昨年ネットレンタル事業も開始し、全国のお客様に着物をオンラインでレンタルできる仕組みを導入しました。

タートルとトックトックのそれぞれのブランドの特長をご紹介します。タートルは多様なシチュエーションに対応する写真スタジオです。和洋折衷のスタイルを取り入れ、様々な撮影ニーズに応えられるようになっております。一方でトックトックは「シャビーシック」というコンセプトを採用し、洗練された落ち着いた雰囲気の写真を提供しております。色彩を最

小限に抑え、統一感のある世界観を演出することで、スタイリッシュな写真を提供することを目的としております。

そして、衣装レンタル事業では新たな試みとして、簡単に着付けができる着物「ラフニ」というものを開発しました。従来の着物は腰紐や補正具を使い、締め付けが強く、特に子どもにとっては負担の大きいものでした。私自身、幼少期に着物を着ることが苦痛であり、その経験をもとにより快適に着られる方法を考えました。そこで、ジッパーやマジックテープを活用し、短時間で簡単に着られる仕組みを導入しました。このラフニを採用することで、着付けに掛かる時間を大幅に短縮され、トイレに行く際の不便も解消することができました。

店舗展開なんですけれども、愛知・岐阜・三重の東海3県で、2つのブランドで25店舗を展開させていただいております。この場所から一番近いのは高浜店でございます。あえて地域密着で我々はさせていただいております。知り合いの写真スタジオでも全国に展開しているところもあるんですけれども、質を高めていく経営に今は注力すべきじゃないかと自分は感じております。

写真スタジオ業界の状況について簡単にご説明致します。写真スタジオ業界の歴史を振り返ると、大きく4つの世代に分けることができます。

- ・第1世代（街の写真館）

祖父の時代のように写真館は写真を撮る場所として存在し、フィルム写真が主流でした。

- ・第2世代（衣装・美容・撮影の統合）

1990年代になると、私の父の代で衣装・美容・撮影を一体化するスタイルが広まり、スタジオアリスさんのような大型チェーンも登場しました。

- ・第3世代（スロースタイル）

2010年代からより小規模なスタジオで、時間を掛けて丁寧に撮影するスタイルが増えました。特にコロナ禍では、密を避けるためにこうした個別撮影のスタイルが支持されました。

- ・第4世代（フリーランスとセルフ撮影）

最近ではフリーランスのカメラマンによる出張撮影が増え、さらにセルフ写真館と呼ばれる自分自身で撮影するスタイルも登場しております。これは韓国発祥の文化であり、日本でも新宿をはじめ全国に広がっております。

このように写真業界は大きな変化を遂げており、それぞれのスタイルには一長一短があります。私たちの事業はこれらの変化を踏まえつつ、新たな価値を提供することを目指しております。

現在ではほとんどの人がスマホを持ち、誰もが簡単に写真を撮影できる時代となりました。スマホの普及により、写真撮影のハードルが大幅に下がり、特別な技術がなくてもすぐに撮影し、シェアできる環境が整いました。この変化は写真館業界にとって脅威とも言えますが、一方で日常的に写真を撮る文化が根付いたという点では、むしろプラスに捉えるべきだと考えております。

弊社は約1ヵ月半コロナ禍による休業を余儀なくされた際、再開後に予想以上のお客様に来ていただきました。これは人々が家族の絆を形に残したいという思いを強く抱いていたか

らだと思えます。私たちの使命はそうした思いを形にし、思い出として残す手助けをすることだと思っております。

従来、写真スタジオは晴れの日に利用されることが一般的でした。しかし、私たちは「思い出事業」というコンセプトを打ち出し、日常の何気ない瞬間も大切に残せるサービスを展開しようと考えております。例えば、ふるさと納税のプロジェクトとして、地元の企業や観光地の写真撮影を行い、地域の魅力を発信する取り組みも行っております。また、障がいのあるお子様向けに特別な衣装を無料貸し出しするプロジェクトも進めております。

私たちは単に写真を撮影するだけでなく、それを振り返る機会を増やすことも重要だと考えております。卒業アルバムやカラオケの懐かしの曲が思い出を呼び起こすように、写真もその時の感情やストーリーを蘇らせるものです。しかし、スマホに保存されたままの写真はなかなか見返されることがありません。そこで、私たちは写真を美術館のように飾る取り組みを始めました。オフィスや自宅の壁に写真を飾ることで、日々の生活の中で自然に思い出に触れることができます。

写真業界は技術の進化とともに変化を続けておりますが、人が人を想う気持ちは変わりません。それを形にするために私たちはこれからも新たな価値を発信していきます。何かしらのご縁でまた皆様とつながることができたら嬉しいなと思う次第です。私の発表は以上になります。

ご清聴ありがとうございました。

## 次回例会案内

令和7年3月12日（水）卓話「私の履歴書」  
会員 亀山晋次君、石川昌樹君